

アマチュア無線テレビ局

昭和四十六年第一級アマチュア無線技師に合格した。四十七年に横田（JA7CUX）さんと共に、アマチュア無線連盟の講師として講習会に参加する事になった。始めて教壇に立ったのは東二番町の市民センターであった。

折からのアマチュア無線ブームで、生徒は百人でいてホールは一杯である。私は無線工学、横田さんは法規と管理。毎週土曜は午後から工学三時間、法規二時間。日曜日は午前工学三時間、午後法規三時間。約一ヶ月で工学二十四時間、法規二十時間受講した者だけ終了試験を受ける。時間不足の人は補講がある。国から認定されて、国家試験と同じ電話級アマチュア無線技師の資格が与えられる。

私は十七年間で約三千人の榴ヶ岡市民センターの他、長町、塩釜等で約三千人の有資格者を送り出した。

一番印象に残ったのは、西多賀国立療養所にて、筋ジフトロフイー患者を相手に病院に出向いて、約



一ヶ月の講習会を行った事だ。

看護婦さんも交え、患者さんは車椅子で、十人位の人数だった。この病気は進行性である。無事講習会を終え終了試験も全員合役し約一ヶ月後、無線従事者免許状を受けた。残念なのはその内の一人が、免許状を入手した翌日逝ったそう。あれから三十年近く経つが何人元気で居るだろうか。

我が家は全員、免許を持つている。昭和何年だったか忘れたが、電波の日に、NHKテレビで我家が紹介された事がある。

私もアマチュア無線の虜になった。店の屋根の上に地上高二十メートルのポールを建て、無線のアンテナを取り付けた。百四十四メガの二段スタックの八木アンテナは高性能だ。東京に車で行くときは、アンテナを向ければ、福島までカーチャンと連絡しながら行ける。

その後アマチュアテレビをやりたくなり、UHF四三五メガヘルツ、三十ワットのアマチュア無線局を申請、予備免許を取得した。そして約三ヶ月間夜だけ夢中になって機械を制作した。十ワット以上は、



放送局と同じに電波監理局の検査を受けて、合格しなければならぬ。

出来上がり、竣工届を出し検査を受け合格した。検査には技官、事務官一人ずつ二人が、測定器類を持ち込み電波を発射し、約一時間で終り、その場で本免許を受けた。宮城県では初めてだそう。

塩釜のアマチュアさんが受信してくれて、「メリックト五」の連絡を受け、気分を好くした。テレビ局機材一式と発電機を積み、アマチュア仲間四、五人で蔵王に移動局を開設、アンテナを建て、図体の大きいテレビカメラ（白黒）を設置、無線電話で知らせ、一方的に放送した。あの当時はNHKでも、白黒放送だった。若

かったから出来たのだろう。

予備免許で制作中、朝目を覚ました妻が「随分早く起きるのね」と言い「昨夜から寝ないで作っている」と話し、呆れられた。そして朝食後何事も無かった如く、仕事に出掛ける。こんな事が何回もあった。何事も始めると夢中になる性格だ。その当時の様々な思いが渦巻く。

